

総合心療センター 精神科

センター長 戎正司

【診療体制】

2025 年、国内では「フジテレビ問題」の勃発で年が明けました。その有り様は、大企業の内側に溜まっていたものが一気に外へ爆発するというもので、巨大組織内の凄まじい集団力動の現象を目の当たりにして、組織にとってハラスメント防止をはじめとしたコンプライアンスが如何に重要であるかを認識させられました。その後は大阪・関西万博、コメ価格の高騰、クマ被害、初の女性首相誕生、台湾有事発言問題などがありました。世界に目を向けると米国で 2 期目のトランプ政権が発足し「トランプ関税」という嵐が吹き荒れました。それらを俯瞰すると、複雑な要素が相互に作用し、長期にわたり一定の秩序や状態を維持してきた平衡状態という構造が少しずつ崩れて変化しているように見えます。

2025 年は総合心療センターにとってもその変化を実感する年になりました。2026 年に完成予定の薬剤棟と本館・北館の空中通路の建設工事に伴い 7 月の病床再編会議にて本院の個室化計画が打ち出され精神科病床削減の方針となり、精神科病床は 60 床から 44 床になることが 8 月に決まりました。北館の病棟スペースを拡大して個室化するためだけでなく、コロナ禍による精神科病床稼働率の低下傾向がコロナ収束後も十分回復しないこと、入院患者さんの中に感覚や知覚の過敏さに悩む方が増え大部屋でなく個室での治療を要する患者さんが増加する傾向もあることなどがありました。また精神科病床削減だけでなく、デイケアメンタルをショートケアに変更することなどが決まりました。その概要は以下の通りです。

- 1) 3 階 → デイケアメンタル閉所し北館病棟に
- 2) 4 階西病棟 → 精神科病床を 12 床削減し北館病棟に
- 3) 4 階東病棟 → 4 人部屋 2 室を個室化し 6 個室・2 人部屋 1 室を 4 人部屋に
- 4) 5 階西病棟 → 4 人部屋 2 室を個室化し 4 個室に

次に、人事についてですが、当センターは高知大学精神科専門医研修プログラムの連携研修施設であり、新専門医制度での当科における 1 人目の専攻医である小松大祐先生が 3 月に研修を終了され他院に転勤、4 月からは高知大学から森田耕吉先生が 3 年目専攻医として赴任されました。また 12 月には武田直子副看護部長が退職されました。

診療体制については、自殺企図や自傷行為で救急搬送され入院した患者さんに対し、精神科医と多職種チームが心理社会的支援を継続して行うことへの診療報酬である救急患者精神科継続支援料の施設基準が整いました。精神科リエゾンチーム加算の届出や専門研修を終了した専任スタッフの配置がその要件になります。当院は自殺企図や自傷行為の患者さんの搬入が県下で最多であるため施設基準が整い本当に良かったです。